

スリット幅” $\circ D$ ”又は” $m \alpha$ ”から根株された木は算定角2又は4とします。 h_a 当たりの林分胸高断面積を推定するためには、測定された胸高断面積に、おのおのの断面積数(2又は4)をかけねばなりません。

傾斜地での定角測定法の実行には、測定された h_a 当たりの胸高断面積に、最大傾斜に応じてデンドロメーター上の表から、補正係数($k = 1 : \cos \alpha$)をかける必要があります。ひもの長さは外部の影響によって、例えば湿気によって変わることもあります。ですから、時々ひもの長さを点検して、調整ねじをすらせて、” r ”を調整すべきです。

重要:通常の利用に先立ち、測器の利用者はおののおのの、限界木を測定して確認することによって、これらの木も教える必要があるかどうか、自ら試してみるべきです。胸高直径(m)と測点から樹幹端までの距離(m)の比は、算定角1では $1 : 50$ 以上、算定角2では $1 : 35$ 以上、算定角4では $1 : 25$ 以上でなければなりません。

3. 材積推定(単木の価格評価のために)

樹高測定と同様に操作します。3つの目印”b, c, d”によって、”a”と”e”の間に入った木を材積の等しい4つの部分に分割します。

4. 林分材積の推定(形狀高表(y. Laer, Speidel 1959)の併用)

林分平均樹高(h m)を求め、4つの主要樹種(*)に対しても、デンドロメーター上の表から相当する形狀高を読み取ります。測定された林分胸高断面積(m²、皮付き)が算出できます。

文献: Bitterlich, W. : Die Winkelzählprobe. Forstwissenschaftliches Centralblatt 1952, S. 215 - 225
 Kramer, H. und Leitfaden für Denzmometrie und Bestandesinventur, J. D.
 Alaca, A. Sauerländer's Verlag, Frankfurt/M., 1987, 2. Auflage
 Laer, W. von Forsteinrichtung, Leitsätze und Zahlungsgrundlagen in
 und Speidel, G. Grundlagen der Forstwirtschaft. Herausgeber: R. Müller,
 Hannover 1959, S. 57
 Speidel, G. Die Wertklasse als Gütemaßstab in der Forsteinrichtung,
 Forstarchiv, 26. Jg., 1955, S. 217 - 224
 Kramer, H. Nutzungspianung in der Forsteinrichtung. J. D. Sauer-
 länder's Verlag, Frankfurt/M. 1982

(*) Ei = ナラ (Quercus robur, Quercus petraea)
 Bu = ブナ (Fagus sylvatica)
 Fi = トウヒ (Pinus abies)
 Ki = マツ (Pinus sylvestris)

このデンドロメーターは以下の目的に利用できます:

1. 樹高測定

デンドロメーターを、目から任意の位置でひもをはってしっかりと持ち、木を根株します。 h ”と” k ”が梢端と根元を覆うように目と測器の間隔、又は木までの距離を変えます。 h_i ”と” h_k ”の比は $1 / 10$ ですから、これから見えていたる点の高さが、樹高の $1 / 10$ に相当します。この高さを廻り、1.0倍すると樹高が得られます。

2. 胸高断面積合計の測定(Bitterlichによる定角測定法の原理)

測定点から一定の水平角を維持しながら、全周開のすべての木の胸高直径を規準します。そのとき林分胸高断面積はスリット幅の開放となり、そのスリット幅からみだした木の本数によって推定されます。

デンドロメーターを目(” r ”)から 50 cm の間隔で垂直に持つと、(50 cm のひもの長さ=目から測器までの間隔 ” r_s ”)幅 ” f_g ”によってあるスリット幅が作られます。その際、教えられた木が、それそれ h_a 当たり 1 m の林分胸高断面積に相当します(算定角1)。

